

国語科学習指導案

福山市立光小学校 三好 いと子

1 日 時 令和4年12月6日(火) 第1校時

2 学 年 第1学年1組 男子16名 女子13名 計29名

3 単元名 お気に入りのじどう車ずかんをつくろう

「じどう車くらべ」「じどう車ずかんをつくろう」

(光村図書 「こくご一下 ともだち」)

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)の指導事項「ア 時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えること。」を受けて設定している。

「事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉える」力を育成するには、写真や絵などを手がかりとしながらそれぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を整理し、二つの関係性をはっきりと理解することが必要となる。

本単元で扱う教材文「じどう車くらべ」は、「問い、答え、答え、答え」という列挙型の構成になっている説明的な文章である。「どんなしごとをするのか」、そのために「どんなつくりになっているのか」という二つの問いがあり、その答えとして、事例として挙げられている「バスや乗用車」

「トラック」「クレーン車」の「しごと」と「つくり」がそれぞれ二つの段落に分けて書かれている明確な構成を有していることから、「しごと」と「つくり」の関係性が理解しやすく、事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉える力を身に付けさせるのに適していると考えられる。

(2) 児童観

本学級の児童は、これまでに挿絵と文章を照らし合わせながら書かれていることの大体を読む学習をしてきている。また、「くちばし」「うみのかくれんぼ」といった説明的な文章の学習を通し、基本的な構成である「問い」と「答え」の関係を基に、文末表現に注意して問いの文と答えの文を考えながら読むことができるようになってきている。「くちばし」では、学習したことを生かして「くちばしクイズ」を作った。その際、資料に書かれているくちばしの「つくり」や「はたらき」について、こんなつくりだからこんなはたらきができるといった因果関係を理解した上で順序を考えて抜き出すことが難しい児童がいた。

(3) 指導観

「じどう車くらべ」の学習を生かし、自分の好きな自動車についての「しごと」と「つくり」の因果関係を考え、書く順序に気をつけながら図鑑を作成することをねらいとしている。単元を通して、特に以下の点に留意して指導を展開する。

①本単元のゴールでは、学習の見通しと必然性をもたせるために、興味のある自動車について調べて「お気に入りのじどう車ずかんをつくろう」と設定する。作成した自動車図鑑は、クラス内で読むように設定し、意欲を高められるようにする。

②事柄の順序を意識させていくために、「しごと」を示す文は赤、「つくり」を示す文は青に色分けしたものをカードにして提示していく。そのカードを並び替えることで「しごと」とそれに応じた「つくり」の順序を視覚的に整理させる。文章を読んで「しごと」や「つくり」を抜き出す際は、ワークシートにも、「しごと(クレーン車はおもいものをつり上げるしごとをしています。)」
「そのために」「つくり(じょうぶなうでがのびたりうごいたりするようにつくってあります)」という文のしくみの記入欄をつくり、教材文全体を通して同じ文型のパターンが繰り返されていることが一目で分かるような工夫をする。

③じどう車の「しごと」や「つくり」を把握しやすいように、導入段階でショベルカーのおもちゃを具体物として用いる。実際に手にとってショベルの部分動くことで荷物をすくいあげて運ぶこと

ができるという特徴や、タイヤがたくさんついていることで安定して動くことに気付き、具体的な自動車のつくりが理解でき、説明しやすくなると考える。

5 単元の目標

- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕 (2) ア
- 事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) ア
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

6 単元の評価規準

様々な自動車の「しごと」「つくり」「できること」をした説明した文章を読み、分かったことを「しどう車ずかん」にまとめる活動を通した指導【言語活動例 C (2) ア】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (2) ア	・ 「読むこと」において、事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。 (C (1) ア)	・ 進んで、事柄の順序など情報と情報との関係を考えながら内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことを「しどう車ずかん」にまとめようとしている。

〈評価の具体及び手立て〉

	評価規準【「おおむね満足できる」状況 (B)】	「努力を要する」状況 (C) と判断した児童への指導の手立て
思考・判断・表現	・ 「読むこと」において、自分の選んだ車の「しごと」と「つくり」の因果関係を見いだすなど事柄の順序を考えながら、文章の内容の大体を捉えている。 ワークシート <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 絵 (児童が選んだ車の) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> (車についての説明を 図書から引用する) ※ 「しごと」は赤、 「つくり」は青で 色分けする。 </div> </div>	・ 一緒に文章を読みながら、「しごと」は赤で、「つくり」は青で色分けし線を引く。左側にはそれと同じ色の短冊にして書き込む。(教材文、自分が選んだ本や図鑑とも同様にする) ・ 車の絵の余白部分に「がんじょうなうで」「タイヤがたくさん」などつくりを簡単に書き込むことで、説明できるようにする。

7 指導と評価の計画（全 12 時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法
一	1	学習の見通しをもつ。 ①様々な自動車の仕組みを説明した絵本を使って教師が行う考え聞かせを通して、働く車に興味をもつ。 ②知っている車を出し合い、「じどう車ずかん」を作るための学習計画を立てる。				
二	2	文章全体の構成を捉え、「問い」が二つあることと、事例が三つ挙げられていることを確認する。				
	3 4 5	三つの事例それぞれの挿絵からつくりを出し合い、接続語を使って「しごと」と「つくり」を説明する文章にする。	○			[知識・技能] 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 <u>ワークシート</u>
	6 (本時) 7	はしご車の「しごと」と「つくり」をまとめる。		○		[思考・判断・表現] 「読むこと」において、事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。 <u>ワークシート</u>
三	8 9 10	①「じどう車ずかん」にまとめたい車を決める。 ②車の絵を描いて「しごと」と「つくり」の関係を考えながらワークシートに書く。			○	[主体的に学習に取り組む態度] 進んで、事柄の順序など情報と情報との関係を考えながら内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことを「じどう車ずかん」にまとめようとしている。 <u>発言・児童の様子・ワークシート</u>
	11 12	③これまでのワークシートを合わせて図鑑にする。 ④クラスの友達に見せ合い、感想を交流する。				

8 本時の学習（6/12時）

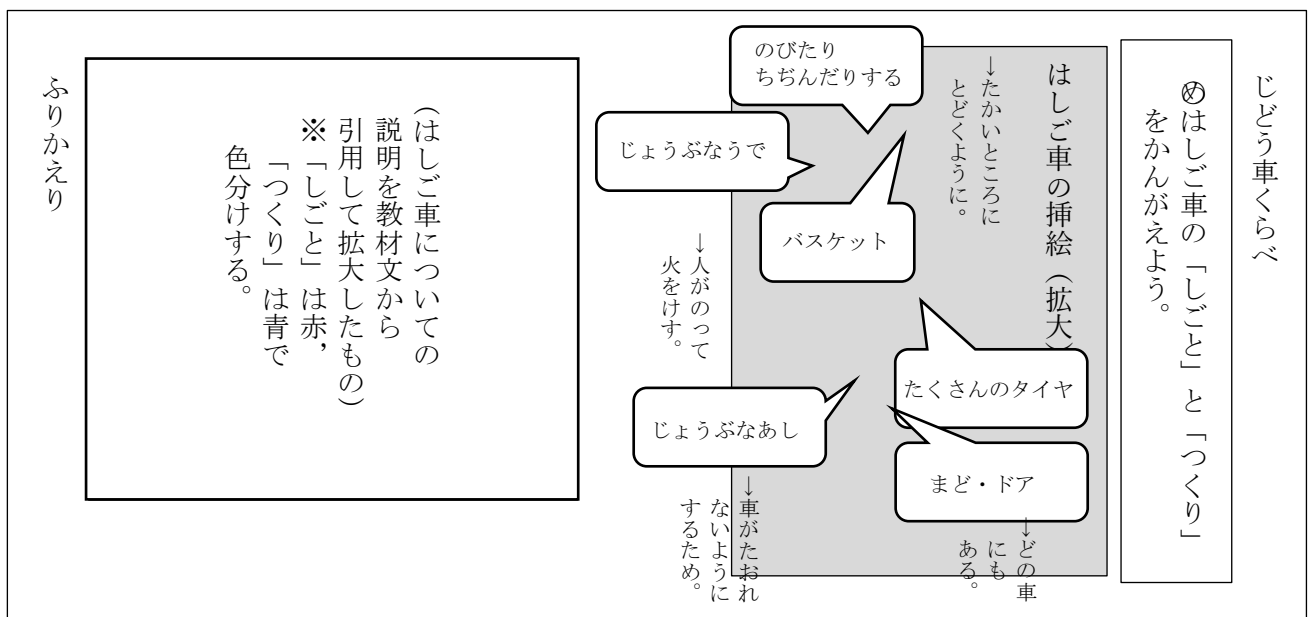
（1）本時の目標

はしご車の「しごと」と「つくり」について、事柄の順序を考えながら内容の大体を捉えることができる。

(2) 学習の展開

学習活動	◇指導上の留意点 ●「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準と評価方法
<p>1 本時の見通しを持つ。</p> <p>①問いの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どんなしごとをしているか」 ・「どんなつくりになっているか」 <p>②めあての確認</p>	<p>◇問いの部分を「しごと」と「つくり」で色分けをして掲示する。</p>	
<p>はしご車の「しごと」と「つくり」を見つけよう。</p>		
<p>2 はしご車の写真だけを見て、どのような「つくり」があるか、見付けたことを話し合う。</p>	<p>◇まずは児童が写真から見付けたことを教師がなるべく数多く拾い、「しごと」につながらない「つくり」であっても、はしご車の見た目の特徴から進んで見付け出せるように促す。</p> <p>◇見付けた「つくり」を児童が発言する際、次第に「なぜそれがついているの」と理由を問う補助発問を増やすことで、「高い場所の火を消したり人を助けたりするから」などの児童の言葉からはしご車の「つくり」につながる「しごと」を徐々に明らかにしていく。</p>	
<p>3 「しごと」と合うつくりを整理する。必ず必要なつくりには赤でかこみ、つくりの説明に取り入れるようにする。</p>	<p>◇「つくり」を話し合った後、はしご車に必ず必要なものは何か問うことで、はしご車の「しごと」に必要なつくりを絞ることができるようにする。</p>	
<p>4 短冊に書き、ワークシートに並べて貼る。</p>	<p>●「 」は「～をしています」の文型に慣れるため、一つめの事例では穴埋め式にして書き込む。</p>	<p>「読むこと」において、自分の選んだ車の「しごと」と「つくり」の因果関係を見いだすなど事柄の順序を考えながら、文章の内容の大体を捉えている。</p>
<p>5 本時の振り返りをする。</p>		<p>【思・ワークシート】</p>

(3) 板書計画



9 指導上の工夫

- 本単元のゴールでは、「お気に入りのじどう車ずかんをつくろう」と設定した。学習の見通しと必然性をもたせるために、導入段階で様々な自動車の仕組みを説明した絵本を使っての「考え聞かせ」をした。
- 自動車の仕組みを説明した絵本を学級文庫に沢山用意し、日頃から興味を持って読書できるようにした。
- 導入段階ではなるべく本物に近い（おもちゃとしてデフォルメされていない）自動車のおもちゃを具体物として用いた。実際に手にとって触って動かしてみたり、目で見たりすることによって、自動車の特徴的なつくりを具体で実感し、働きを考えることができるようにした。

10 手立ての具体

①挿絵に「つくり」を書き込む

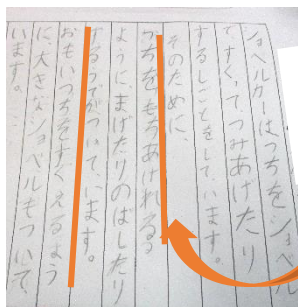
- 児童実態から、車のもつ「しごと」と「つくり」の因果関係が見いだせない児童がいることを予想した。そこで、ワークシートに車の挿絵を拡大したものを付けて、そこに児童がつくりを書き込めるようにした（例：「タイヤ」「まど」「いす」「にもつをのせるところ」など）。さらに、書き込んだ「つくり」の中でその車にしかない特別な「つくり」に赤丸をし、なぜそれがついているのかを問うことで、その車の特徴的な仕事とつくりがつながっていることに気付かせることをねらった。

②「しごと」と「つくり」を色の異なる短冊に分けて書く

- 教材文がどのような構造で書かれているのか、学級全体で話し合いながら見付けるだけでは分かりにくい児童がいるため、「しごと」と「つくり」の部分をそれぞれ色の異なる短冊に書くことで、教材文が『「しごと」そのために「つくり」』の順に書かれていることに気付き、その順番に書くと読み手に伝わるという工夫に気付くことができるようにした。また、第三次で自分が選んだ車について書く際にも同じ構造で書くことができるようにした。

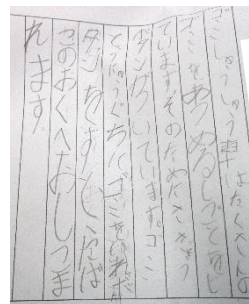
11 評価の実際

本単元を終えて、A評価の児童は3人、B評価の児童は21人、C評価の児童は5人であった。今後は、書いている事柄の意味が前後で繋がっているかという点を確認しながら書く活動に取り組んでいく。C評価の児童は、今後も書き方の型を示し、そこに自分で言葉を当てはめて文を作っていくことに取り組んでいく。



A評価の児童

- 「しごと」→「つくり」の順で書くことができています。
- 「しごと」と「つくり」の因果関係が成立している。
- 本に書かれていることに必要な言葉を自分でつけて足してより読み手に伝わるように書き方を工夫している。



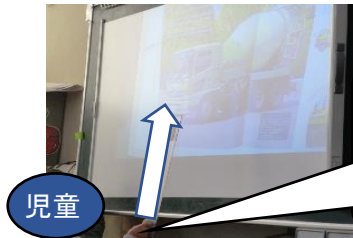
B評価の児童

- 「しごと」→「つくり」の順で書くことができています。
 - 「しごと」と「つくり」を見付けているが、「しごと」と「つくり」の因果関係が読み手に分かるように表現できていない。
- 例：ごみ収集車は、たくさんのごみを集める仕事をしています。そのために、作業ボタンがついています。
ごみを集める=作業ボタンがついている

12 成果と課題

【成果】

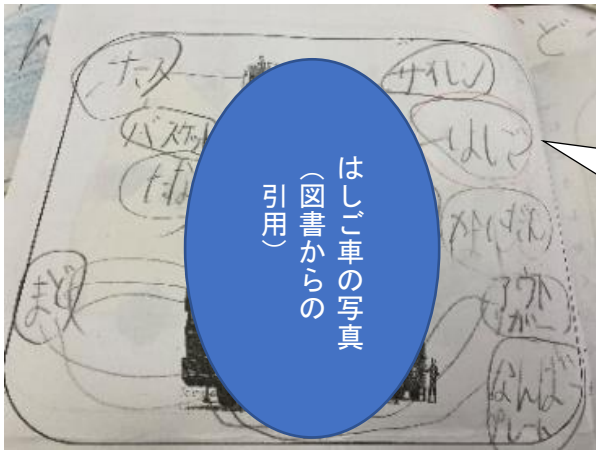
- ①導入時の自動車の仕組みを説明した絵本の「考え聞かせ」をした際に、自分の知っている車の役割について経験をもとにその車の役割について自由に友だちに説明することができた。また、「ほかの車の仕事を調べてみたい」といった学習意欲につながった。



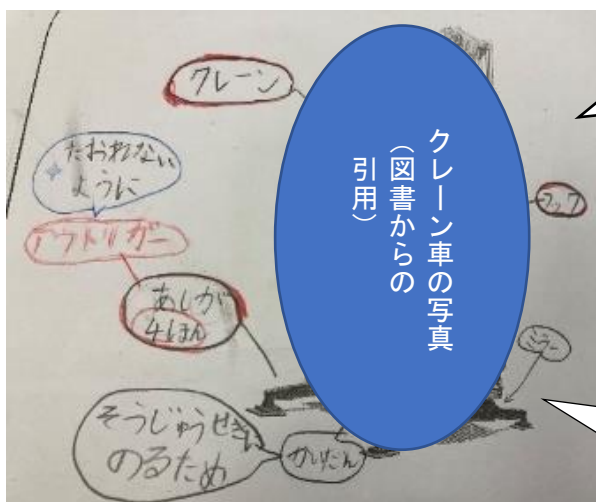
これはね、コンクリートミキサー車っていうんだよ。どうろでこうじをしているときに見たよ。車の後ろに丸いものがついていて、クルクル回るんだよ。なんで回るのかなあ。

- ②ワークシートに貼った車の写真に「つくり」と「しごと」を書き込むことで、児童自身が見つけた「つくり」がその車の「しごと」に不可欠なものであるかどうかを吟味しながら考えを整理することができた。

実際に児童が書き込んだワークシートの写真部分



見つけた「つくり」に赤丸を付けている部分が、児童が「しごと」に不可欠だと考えたもの。



児童の実際のつぶやき

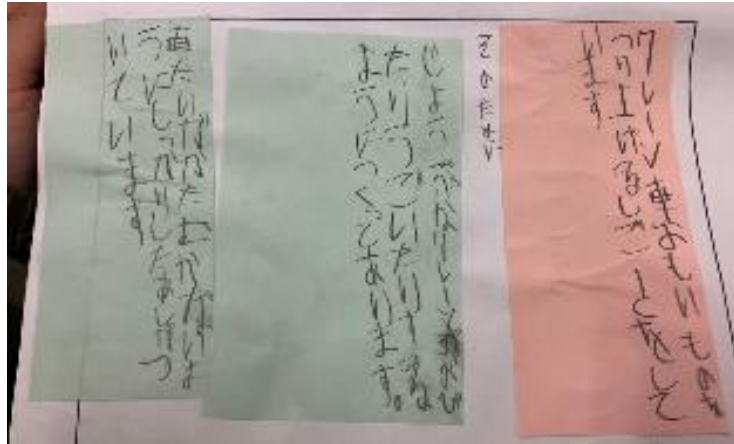
まどは、どの車にもついているから、クレーン車にしかない「つくり」ではないね。

このように、「つくり」と「しごと」の因果関係に着目してワークシートに書き込みながら児童は思考を整理していった。

- ③全体で「しごと」に必要な「つくり」を考えていた際、「クレーン車には、じょうぶなうでだけでなく、荷物をひっかけるためのフックとワイヤーがいるのではないか」といった、叙述にはな

い情報について推察した意見が出た。「しごと」と「つくり」の因果関係を正しく理解したがための考えであったため、児童の意見を取り上げ、文章に書き加えた。

- ④「しごと」と「つくり」を色の異なる短冊に分けて書いたことで、視覚的に書き方の理解がしやすくなった。



色分けした短冊を貼った児童のワークシート

【課題】

- ①「つくり」と「しごと」には因果関係があるという実感がもてないままの児童がいた。
→因果関係のない「つくり」と「しごと」を取り上げて例示し、これを図鑑に加えていいかを考えさせても良かったのかもしれない。
例：×クレーン車には、重い荷物を持ち上げて運ぶ仕事をしています。そのために、窓がついています。
○クレーン車には、重い荷物を持ち上げて運ぶ仕事をしています。そのために、がんじょうなうでと、太いワイヤーがついています。
- ②挿絵を元に見つけた「つくり」とそこから推測した「しごと」について、教材文ではどのように書かれているのか結び付けながら読むことが足りず、第三次で自分で本から調べたい車の「しごと」や「つくり」を抜き出す際、どこに「しごと」や「つくり」のことが書いてあるのかわからない児童がいた。「しごと」のことは「●●のしごとをしています」という書き方で、つくりのことは「●●がついています。」という書きぶりで書かれていることを全体で繰り返し確認しておくよかった。

13 参考

本単元で使用したワークシート

